



## 「ハイブリッド・エコ・ハートQ住宅の科学」② 住宅の快適指標編

5・6pの紹介

九州住環境研究会では、左写真の「ハイブリッド・エコ・ハートQ」②住宅の快適指標編の他、住宅に関連する環境について、4分冊の小冊子を発刊しております。住宅建築は、単に住宅を建てればよいというわけではなく、断熱性能などさまざまな数値によって性能管理が行われています。住宅の性能には、明確な基準があり、素材の採用や施工方法にも明確な根拠があります。それを項目毎にまとめたのが上記の小冊子です。これから順次、抜粋してご紹介致しますが、本冊子に興味のある方は、電話・インターネット等でお申し込み頂ければ差し上げます。

# 住宅が自動車事故より危険な理由？

CPA(入浴中「心肺停止」)を防げない住宅は欠陥住宅である。

## ◎住宅に高性能を求める理由はCPAを防ぐため

住宅に高性能な温熱環境が求められる理由は、家族の命を守るシェルターとしての役割を期待しているからです。特にCPA(入浴中「心肺停止」)や脳血管疾患を問題視するのは建て主様にも選択責任があることを自覚して頂きたいからです。

断熱不良や結露の発生等、高性能を語る資格の無い住宅は選択しないでください。[大切な家族の健康を守るための住宅と、地球環境を守るための住宅は全く矛盾しません。](#)

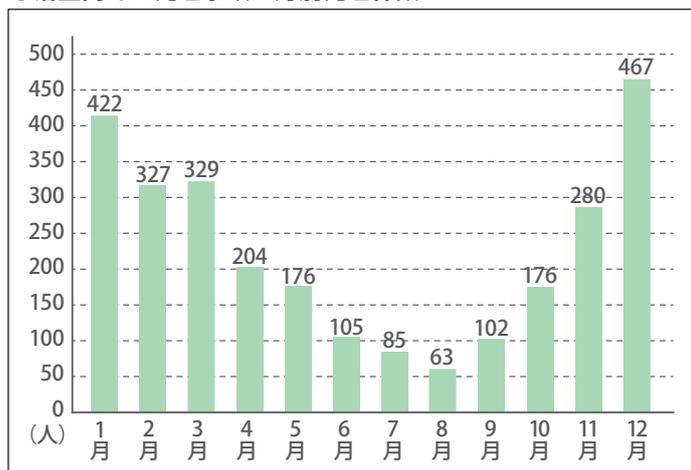
皆様がこれから建てられる住宅には、家族の健康と省エネルギーによる人類の未来が掛かっています。地球温暖化を防止でき、省エネルギーに貢献できる住宅を建てる、という自覚を持って建てていただきたいからです。

住宅の進化は必然的に寒さの厳しい北欧や北米から始まりました。日本は温帯地域に位置していますが、国土の両サイドを流れる暖流の影響で、夏は「季節蒸暑地域」といわれる熱帯降雨林並の蒸し暑さの特殊な気候があり、冬もまた北極の寒気団がジェット気流に乗り日本列島を通過する為、日本列島は温帯とは名ばかりの冬の寒さに見舞われます。暑さ対策だけでも、寒さ対策だけでも駄目な、日本の住宅の実情を知っていただく事が重要です。その課程でどのような住宅を選択すべきか施主の立場として、しっかり見極めてください。

## ◎入浴中心肺停止（CPA=Cardio Pulmonary Arrest）の原因！

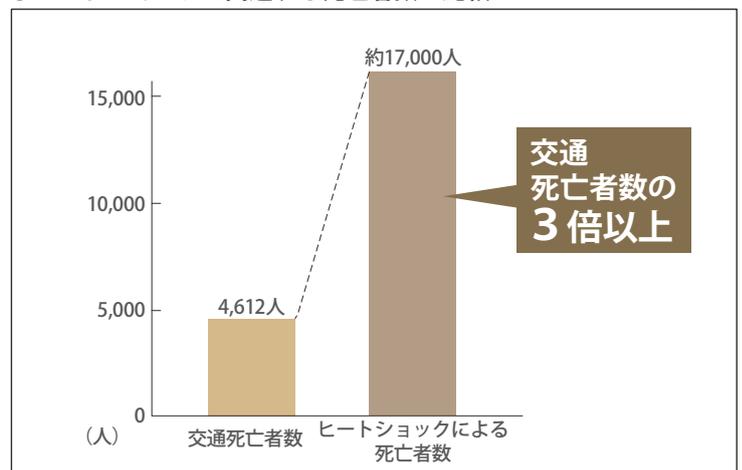
表-2、表-3はこの頃、メディアで頻繁に紹介されているCPA発生月で、11月～3月の冬期の死亡者が極端に多くなっているこの表は、日本の住宅性能の現状を端的に表しています。

●浴室での死亡事故 月別死亡件数



出所：国民生活センター(1993～1997年までの集計)

●ヒートショックに関連する死亡者数の比較



出所：東京都健康長寿医療センター研究所「高齢者の入浴中の急死に関する調査」2011年総務省統計局「平成23年中の交通事故死亡者数について」

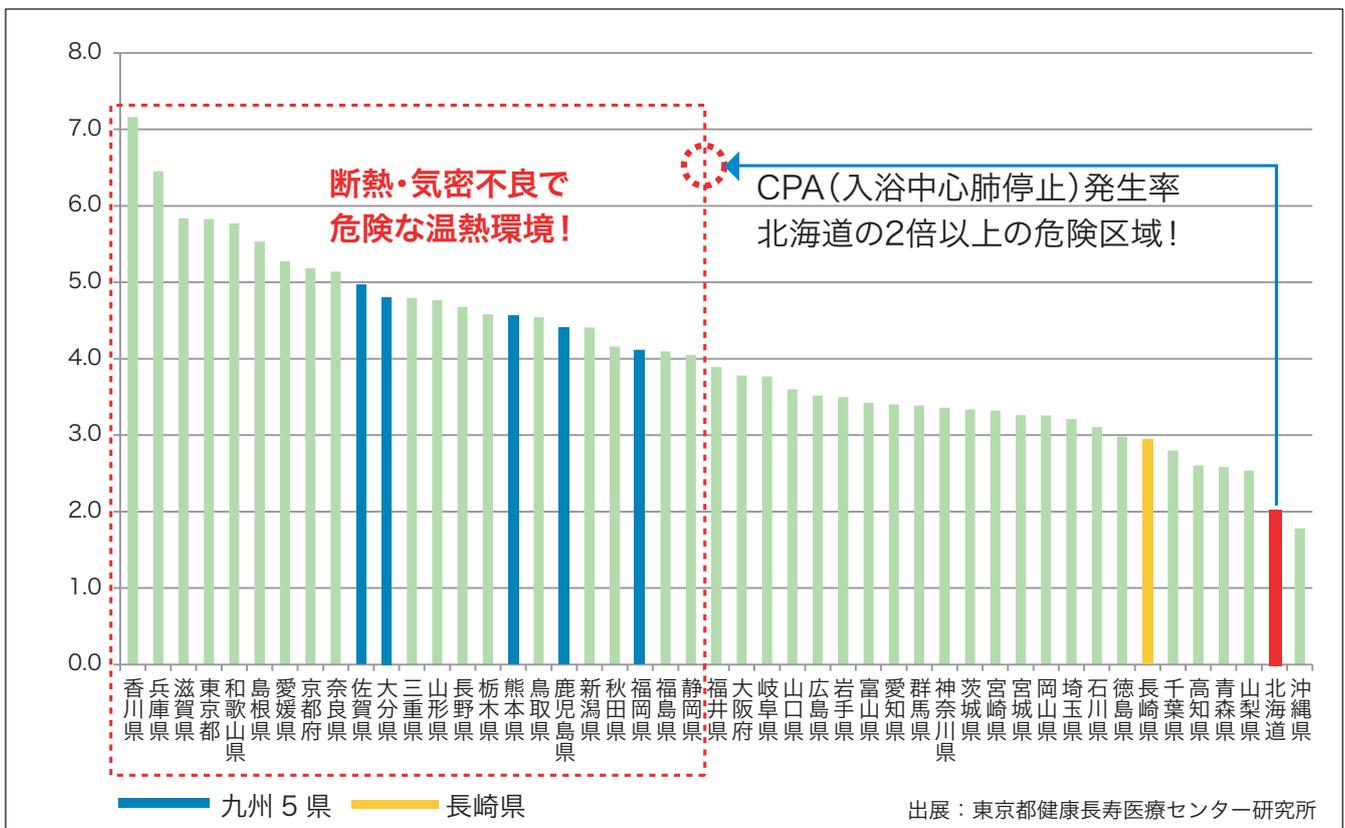
# 見かけだけ立派でも、命も守れない住宅に怒りを覚えるべき。

## ◎温かい地域でも住宅性能が悪いとCPAが発生します。

「東京都健康長寿医療センター」が「高齢者の入浴中の急死に関する調査」で明らかにしているように、住宅の風呂場で溺死・溺水するCPA「入浴中心肺停止」が交通事故死亡者よりも圧倒的に多いという事実です。しかも冬期の死亡率が夏期とは比較にならないほど多いことです。夏期と冬期の極端な死亡率の差から類推すると、浴室でヒートショックを起こして死亡しているケースが多いようです。このような浴室内でヒートショックを発症させる住宅は住宅内に室温差があり、この住宅内の温度差こそが大切な家族の健康を奪い、住宅を交通事故よりも危険な凶器に変えているのです。

●都道府県別に見た高齢者1万人当たりCPA（入浴中心肺停止）件数（件）

表-4



■表-4は入浴中に心肺停止（CPA）を発症した全国9360件の各県別データを分析。

- ①入浴中のCPA状態の発生頻度は気温低下と負の相関を示し、住宅が低温で増加することがわかった。
- ②沖縄県と北海道は最も発生頻度が低い。北海道の場合は冬期の室内温度が高く、明らかに高断熱性能の結果である。沖縄の場合は外気温が高いという地域的な理由である。
- ③気温の変化に左右されない温度差の少ない住宅の温熱環境づくりが予防に大切であることがわかった。
- ④長崎県と九州5県の差は玄界灘に面した寒冷地域の長崎県の断熱性能が高いことが分かる。その他の県はCPA対策のためにも高断熱化が必要である。